

# 五輪日本選手団がトレーニング 国内の中核拠点を探索

## 文学部人文・ジャーナリズム学科のスポーツ3ゼミ



6月14日、人文ジャーナリズム学科の3ゼミ合同で「味の素ナショナルトレーニングセンター」(NTC)東京都北区西が丘を訪れました。NTCは、2008年にトップレベルの競技者が国際大会における総合的競技力の向上を図るために設置されたスポーツ界待望のナショナルレベルの中核トレーニング拠点。隣接する国立スポーツ科学センター(以下JISS)と連携し、スポーツ科学・医学・情報を取り入れた効果的なトレーニングとサポート体制を整えています。



▲「がんばれニッポン」の大旗の前に

「文学部人文・ジャーナリズム学科のスポーツを研究する3つのゼミ(相澤勝治ゼミ、久木留毅ゼミ、平田大輔ゼミ)のゼミ生14人が、選手団の拠点となった「味の素ナショナルトレーニングセンター」をフィールドワークした。その様子を久木留毅教授に寄稿していただいた。久木留毅教授は現在、日本代表選手団本部長としてロンドンに滞在している。

### 文学部・久木留毅教授 寄稿

参加者はまず、日本オリンピック委員会(JOC)の担当者から、NTCの概要と役割について映像とスライドによる説明を受け、館内を見学しました。

地下1階、地上3階(敷地面積1万9941平方メートル、延べ床面積2万9058平方メートル)の広い館内にボクシング、ハンドボール、バレーボール、レスリング、柔道、卓球、バドミントン、テニスなどのトレーニング場があります。実際にクラブを付けてリングに上がるなどして体感、プレイングに触れることができました。

## 実際に体感、情報戦略事業にも触れる

視察の後、JOC担当者に質問、見識を深めました。さらに、JISS情報研究部研究員から日本代表選手団等へ実施している情報戦略事業について



▲アーニョさん(左) ミュラーさんら

7月6日、大学院文学研究科で研究する留学生たちが、本学図書館の貴重書「向井コレクション」を閲覧した。

江戶期の書物(和本)を囲んだのは板垣則子研究室で江戸文学を研究する大学院博士後期課程のアーニョさん(左)とミュラーさんら6人。

### 江戶戯作本「向井コレクション」などを閲覧

#### 米留学生ら図書館で

「向井コレクション」は同図書館のOPAC(オンライン蔵書目録)に掲載されており、海外の研究者からも注目を浴び、閲覧希望も多い。

※向井コレクションに掲載されている、海外の研究者からも注目を浴び、閲覧希望も多い。



▲施設を見学するゼミ生たち

「今後のゼミ生たち」前学習が効果を発揮しました。今後もゼミナールでは、スポーツ(特にトップスポーツ)のさまざまな場を

## 独フランクフルト大生とネット授業

### 文・板垣ゼミ生

「コンニチハ」「グーテンモルゲン」。6月29日、文学部日本文学文化学科の板垣則子ゼミ生50人とドイツのフランクフルト大で日本学を学ぶ学生30人が「ネット会議システム」で結んで共同授業を行った。両大生は相手方の映像を見ながら活発に討論した。当日は学園祭「黒門祭」の開催日で、授業が公開された。



▲フランクフルト大のコンテンツを見る

## 映像通じて「弁当文化」など論議

板垣教授とフランクフルト大のギドー・ポルデリン准教授が進行役となり、フランクフルト大生が▽森鷗外の「舞姫」▽村上春樹の「偶然の旅人」を見る。板垣ゼミ生は▽「弁当文化」▽「テロ文化」▽「ロマエ」をテーマに発表し、質疑応答が行われた。



▲専大からの質問も活発

本男子は料理好きが多いと聞いたがなぜ? 男子

「弁当文化」については「日場であいさつし、V C(バーチャル・クラスルーム)って本当に素晴らしいですね。」とコメントした。

## 外国語のススメ 研究室

—●11●—

### スペイン語

砂山 充子 経済学部教授

大学時代、ある友人がこう言いました。「大学のたった4年間で満身に学べるのは、正しい知識を得る方法と語学ぐらいだ」と。やけに説得力のある言葉でした。それは今でもそうだろうと思っています。

経済学、法学、文学、歴史学など皆さんが学ぼうとしている学問は奥深いものです。4年間の大学の課程で到達できるのは、それぞれの学問分野の入り口くらいまででしょう。ただ、語学は4年間頑張れば、それなりの力をつけることができます。語学に限って言えば、若くて頭が柔軟であればあるほど、早く身につきます。

英語を中学・高校と6年間もやってきたのに使い物にならない、と言う人は多いでしょう。でも待ってください。コツコツと勉強してきてそれでも



▲スペインバスク地方サン・セバ스티アンのコンチャ海岸

出来ないのでしょうか? きっとそうではないはずです。

最近、「勉強しないで聞き流すだけでよいのです」と銘打ち、宣伝をしている語学教材がありますが、私はきちんとした語学力はやはり勉強しないと身につかないと考えます。確かに外国語をたくさん聞いて耳を慣らしていくことや、表現を暗記して繰り返すことは語学力向上に効果があります。

私も中学・高校時代、英語のテキストや詩を繰り返し音読し暗誦したものです。ただ、自分で表現したいことは、暗記だけでは表現できません。外国語として学ぶ以上、その構造や最低限の約束事(つまり文法)を分かっていると、いつまでもきちんとした言葉を使えるようにはなりません。(LL研究室ホームページ「外国語のススメ」に続く)

### 若いうちに語学を学ぼう

\*全文はLL研究室ホームページで